

# 絶滅危惧種の淡水魚「ニッポンバラタナゴ」を題材に

## ESDプロジェクトを実施しました！

三井住友信託銀行では、環境専門のインターネット放送局グリーンTV ジャパンと協働し、ESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトとして、次世代を担う子供たちに向けた環境教育に取り組んでいます。

2015年度第1弾は、絶滅危惧種「ニッポンバラタナゴ」を題材にしたESDプロジェクトを実施しました。



三井住友信託銀行八尾支店では、「生きものを絶滅から守るために大切なことは一人でも多くの方に関心を持っていただくこと」と考え、2005年から店頭でニッポンバラタナゴを飼育し、その保全活動の大切さを地域の皆さまにお伝えしてきました。

6月12日（金）、八尾市立中高安小学校5年生を対象に実施したESDプロジェクトでは、八尾支店のバラタナゴ飼育活動を長年ご指導いただいているNPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の加納義彦代表理事に講師を務めていただきました。

### 「ニッポンバラタナゴ」って何？

「ニッポンバラタナゴ」とは、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠA類に指定され、絶滅が最も危惧されている日本固有のコイ科の淡水魚です。オスは、繁殖期に綺麗なバラ色の婚姻色に体が染まります。この姿がまるでバラの花のように美しいことから「バラタナゴ」という名前が付けられました。ため池や沼など、水の流れが少ない場所に生息する魚ですが、現在では、大阪府八尾市のほか四国の高松市など、ごく限られた地域にしか生息していません。

### ため池の大掃除「ドビ流し」

かつての高安地域は農業が盛んな場所で、雨水や川の水を蓄える「ため池」がたくさんあり、田んぼや畑で使う大切な水をきれいに保つために、「ドビ流し」という作業が行われていました。これは、ため池の中で死んだ生き物や腐った枯れ葉などがヘドロとして溜まらないように、定期的にため池を大掃除する作業のことです。この作業のおかげで多様な生きものがため池に暮らしていました。



しかし、農業をする人が減ったことで濁ったままのため池が増え、ニッポンバラタナゴが絶滅の危機に瀕しました。人間の暮らしの変化が、生きものの環境にも大きな影響を与えてしまったのです。NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会では「バラタナゴが暮らす豊かな自然を取り戻し、未来に残そう」と様々な活動に取り組んでいます。授業では、加納代表理事が地元高安の自然やタナゴの住むため池のドビ流しの模様などが収められた動画教材を使いながら「**ニッポンバラタナゴを守ることは、八尾の豊かな自然と文化を守ること。そして、そこに暮らす生きものを守ること。**」と子供たちに語りかけました。

この機会に、皆さまの身近な自然や生きものに興味を持っていただければ幸いです。